

【文部科学大臣賞…中学生の部】

「支えられる私」

神奈川県・川崎市立柿生中学校

3年 山口 真侑さん

私の姉は、生まれつき筋力が弱く、知的障害があります。障害者の姉、というとか特別なように思われるかもしれませんが、私にとっては姉との生活は特別なことなど何もない、むしろ面白くて癒される毎日です。

姉には、一言で表せない程、魅力的な面がたくさんあるのです。

まず、生まれつきとても優しいです。祖母が、今でも繰り返し話があります。洗面所で手を洗っていた祖母のところに、幼い姉がハイハイでやって来て、隣の引き出しからタオルを出し、祖母が手を洗い終わると「ハイ」と言って差し出したそうです。話し始めるのも、歩き始めるのも遅かった姉ですが、大好きな祖母のことをよく見ていて、精一杯役に立とうとしたのだと思います。

姉は今でも言葉は幼いですが、気持ち弱っているとそっと寄り添ってくれたり、後ろからぎゅっとしてくれたりしま

す。

それから姉にはユーモアがあります。誰もが真似できない間で絶妙な一言を発するので。まさか、姉からこんな言葉が出るなんて！と姉のキャラクターならではの面白さに、皆で顔を見合わせて笑ってしまいます。歌も大好きで、お風呂から姉のオリジナルの長い長い機嫌のいい鼻歌が聞こえてくると、今日も世界は平和だな、と幸せな気分になれます。そして、私が姉を一番尊敬しているのは、その芯の強さです。姉は、どんな環境でもひたむきに頑張れる強さを持っているのです。

筋力の弱い姉は、走っても普通の人の方が歩くより遅いです。しかし、毎年、運動会では、自分一人で走り抜き、「歩いていく！」とヤジを飛ばす人達までをも感動させてしまいました。それから、演劇の稽古の時。姉は演劇が大好きで、自分が参加できる日は全て稽古に出て、誰よりも意欲的に取り組んでいました。しかし、姉の出番はエンディングに出てくるセリフのない役だけ。確かに姉は普通の人より上手く演じることはできないかもしれませんが、はっきり台詞を言うことも難しいです。しかし、誰よりも演劇が好きで、熱心に全てのセリフや動きを覚えていた姉は、こんなに少ない出番しかなくて、不満に思わないのだろうか。私としては、そんな姉を見ていて正直不憫に思いました。私だったら、最初から結果がついてこないとわかっていることは、努力できないと思いま

す。ですが、姉は最後までしつかりやりとげていました。

知的障害というと、できることが少なく、私達が手助けして守ってあげなくてはいけない、弱い存在としてとらえがちです。

しかし、姉と暮らしていて私はそんな風に思ったことはありません。私自身、姉の芯の強さ、優しさ、ユーモアにとっても助けられていると思うからです。

助けてあげなければいけない、弱い存在としてとらえるのではなく、一人一人が対等に素晴らしい魅力を持つ存在なのだ、お互いを尊重しあえる社会になって欲しい。そして、姉のように障害のある人達にも、「どうせ出来ないよね」といってチャレンジさせてあげないのではなく、本人の意欲に応じて様々な事に挑戦する機会が増えたらいいと姉との生活を通して心から願っています。